

# 小松市は「安全安心なまちづくり」を推進します！

## 無料簡易耐震診断

●お住まいのおおよその強さを、図面や写真を基に、診断します

○対象となる住宅

- ・昭和56年5月31日以前に工事着手された木造住宅（在来軸組み工法）
- ・店舗併用住宅も対象（条件があります）

○対象となる方

- ・対象住宅の所有者

○内容

- ・床面積が200㎡以下で  
図面のあるものは**無料**

（上記以外は有料となります）

## 耐震診断補助

●お住まいの正確な耐震診断に対し経費の一部を補助します

○対象となる方

- ・対象住宅の所有者、又は居住者

○補助額

- ・耐震診断に係る経費の4/5を補助！

限度額 **12万円**

## 耐震・防火改修工事補助

●耐震改修工事や防火改修工事を行う際に費用の一部を補助します

○対象となる方

- ・対象住宅の所有者、又は居住者

○補助額

- ・耐震改修工事費150万円までは 個人負担がありません！

限度額 **150万円**



## 危険ブロック等の除却補助

●道路に面し、通行人の安全を脅かす恐れのある危険ブロックや石塀の解体を補助

○補助額

限度額 **10万円**

（石塀は除却した石の50%を再使用する場合、限度額を15万円まで拡充）

それぞれの制度には他に条件がありますので、詳しくは小松市建築住宅課へお問い合わせください

小松市 建築住宅課

検索

Tel:0761-24-8106

Fax:0761-23-6403

Mail:housing@city.komatsu.lg.jp



# 今すぐできる！家の中の地震対策

地震が多く発生する国、日本。世界の地震の約2割は日本の周辺で起きているといわれています。阪神・淡路大震災から20年が経ち、そして東日本大震災から4年が過ぎようとしている今、改めて地震に対する防災について考えてみましょう。



2015年2月27日

## 本当に怖い！家具の転倒落下

### 家具転倒がもたらす危険

1995年に起きた阪神・淡路大震災では、住宅内部での被害が多く、**負傷者の約半数(46パーセント)は「家具の転倒、落下」が原因だったというデータがあります。**ガラスの飛散によって負傷した人(29パーセント)を含めると、なんとおよそ4分の3の人が家具やガラス飛散が原因でしかをしたことになりました。つまり、家具をしっかりと固定し、ガラスの飛散防止対策を行えば、震災のときにほとんどの人はけがをせずにすむのです。万々に備えて、早速防災対策を実施していきましょう。



家具の転倒落下防止に関する調査委員会報告/東京消防庁

## 家具の転倒を防ぐには

家具の転倒防止対策にはいくつかの方法があります。まずは、タンスや食器棚、本棚等の背の高い家具の転倒を防ぐ方法をご紹介します。

### 器具を使って家具を固定する

家具転倒防止器具は5つのタイプがあります。



小

器具の効果

大

行政などでは、強度の高い「L型金具」を推奨していますが、賃貸住宅だったり、壁の材質(石膏ボードなど)の問題で壁に穴をあける金具を使うのが難しい場合は、天井と家具の隙間には「ボール式器具」を、家具の底面には「ストッパー式器具」もしくは「マット式器具」を設置すれば「L型金具」と同じ強度に！

### 身近なもので固定する

### 家具の配置を変える

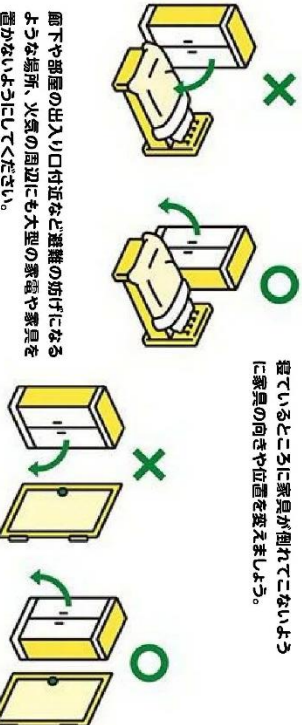
器具や段ボールなどでの固定もできない場合は、家具の配置転換を！

段ボール箱で  
すき間を埋める  
箱とタンスの  
間に粘着マット  
などをはさみ  
一体化する。

天井と箱のすき間は  
2cm 以内にする。



滑り止めシートをしく  
地震の揺れで家具が滑らないようにする。



廊下や部屋の出入り口付近など避難の妨げになるような場所、火気の周辺にも大型の家電や家具を置かないようにしてください。

揺れているところに家具が倒れてこないように家具の向きや位置を変えましょう。